実施要領　様式4　　令和2　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0270700313		
法人名	(有)ケアサポート三沢		
事業所名	グループホーム赤とんぼ		
所在地	三沢市大字三沢字南山85－10		
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30
訪問調査日	令和2年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「あしを視る」を毎日行っている。その手順として、足浴を行い。清潔保持と心地良さを保てるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者の日々の暮らしぶりを一行日記に記録し、毎月の金銭管理状況の報告と共に御家族に送付している。この取り組みは、利用者の生活の様子をよく把握することができるため、家族からとても喜ばれている。また、利用者の健康維持には食事が大切であるとの認識から、管理栄養士が献立を作成し、食材も自社の畑で獲れたものを中心に調理を行う等の配慮がなされている。「臭いのない施設」を目指した取り組みとして施設内の清掃を徹底し、ホール・居室ともに清潔に保たれている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	(有)ケアサポート三沢 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を唱和し、周知、共有できるように取り組んでいる。	管理者と職員は、地域密着型サービスの役割を理解し、「自分らしさを失わない家族も安心できる笑顔と思いやり,そして、安らぎのある生活を援助することを目的とする。」という独自の理念を掲げ、朝礼で理念を唱和して共有に努めている。職員は理念の意味を理解し、日々のサービス提供場面に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	10月中旬にサツマイモ堀会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症予防のため中止とした。	近隣は転勤族の人が多く、関係を築くには難しさはあるが、町内会に加入して防災訓練の際町内会関係者を招き入れ、おにぎりの炊き出しを行う等の関係構築に努めている。また、市主催の認知症に関するイベントに参画し、認知症についての相談に応じる等、徐々にホームの理解を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価及び外部評価の結果について説明している。	町内会長や民生委員、家族、包括センター職員が参加し、運営推進会議を開催している。例年は2ヶ月毎に開催しているが、今年は3ヶ月に1回の開催となっている。会議では、外部評価の結果等に併せて目標達成計画と振り返りの取り組みについて説明し、運営に関する意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価実施年度には「自己評価及び外部評価結果」と「目標達成計画」を提出し、報告している。	運営推進会議には、市の包括支援センター職員に毎回参加していただいている。ホームの実態等を理解してもらうために、「自己評価及び外部評価票」と「目標達成計画」を提出し、報告を行っている。また、必要に応じて、利用者の生活の質を高めるための課題解決に向けて、行政と連携を図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、晴天日は開錠し、ご利用者様と職員が一緒に散歩している。	全職員は、マニュアルの作成と研修等で身体拘束の内容と弊害についての理解に努め、身体拘束を行わない姿勢で日々のケアを提供している。天気の良い日は、玄関を開錠しつつ外出傾向を察知できるように見守っている。無断外出時に近隣から協力が得られる体制はないが、ホーム職員の見守りに併せ、敷地内の管理棟職員が見守っている。安全確保のため、カメラの設置が必要な場合は同意を得て、その理由や経過観察等について記録を残し、継続について検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	12月外部からの講師を招いて研修会を実施する。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を活用している方はいないが、学ぶ機会を持って理解を深めたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前に、契約書と重要説明書を事前に渡し、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご要望箱を設置している。ご利用料を支払いに来た際にご家族様より、ご意見をいただくことが度々ある。	管理者と職員は、利用者の表情等から本人の不満や意見等を察するよう気を配り、把握されたことを今後に活かしている。また、利用者の暮らしぶりを一行日記にして記録し、受診状況や金銭管理状況と共に毎月家族に送付している。日記は利用者の良い点ばかりではなくありのままを記し、利用者の状況がわかるとご家族から喜ばれている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、管理者と職員でユニット会議を行い、意見を聞く機会を設けている。	現場職員の意見を運営に反映させるため、月1回のユニット会議、2、3ヶ月に1回開催の職員会議で職員の意見を聞いている。管理者等は、職員の希望を聞きながら勤務体制や異動等を検討し、職員の急な欠勤等には社長が自らが勤務に入ることもある。職員の異動等を行う場合は、事前に慣れ親しむ期間を設ける等、利用者に与える影響に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員等特定処遇改善加算を取り入れ、職場環境の向上と職員の処遇向上に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成している。今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため研修には参加していない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みを行っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があったときには、ご利用者様に見学してもらい、面会を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談があったときには、ご家族様に見学をしていただき、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療行為等が必要な場合には、医療体制の整っている施設への紹介を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様がご利用者様を見守る等、職員に協力していただく場面が度々ある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居により、ご本人とご家族様の関係が薄くなることがあるので、日々の様子を一行日記として家族様に送付し、情報の共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため外出を控えている。	利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等を把握し、手紙のやりとりや電話の取次ぎ等、これまで関わってきた人との交流を継続できるよう支援している。ホームでは、利用者の希望に応じて馴染みの美容院に出かけたり、お墓参りに出かけるための支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士にトラブルが生じた際は、場面転換を行い、長引かないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時、次の入居先に情報提供シートを届け、今までの生活状況を伝えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当初より積極的に聞き込みを行わず、わかる範囲のことや日々の生活を通じて知る情報等も含め、ご利用者様の希望や意向の把握に努めている。	紅葉狩りに出かけたとき俳句を詠む利用者がおり、俳句をきっかけに利用者同士の話が盛り上がる場面がある。意向が十分に把握できない場合は、「ゆっくり聞き取り」を心掛け、生活の中から聞いていいこと、聞かないほうがいいこと等を見分け、全職員が利用者の意向や希望等を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、生活背景等のシートにご家族様から書き込んでいただくほか、生活しながら様々な情報を集め、サービス提供に反映している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化については、申し送りノートを活用し、全職員で情報を共有できる体制にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や緊急ユニット会議、ご家族様との協議のうえで介護計画を作成している。	介護計画は、家族や関係者等、利用者をよく知る人の意見や気づきを把握し、利用者本位の介護計画を作成するよう努めている。計画の実施期間は3ヶ月と明示しつつ、利用者の身体状況の変化や、利用者、家族等の希望の変化時には総括表によるモニタリングを実施し、随時見直しを行っている。見直しを行う際には、関係者等の意見や気づきを収集して再アセスメントを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や観察記録、センター方式D3（生活リズム、パターン）D4(24時間生活変化）シートを用いて、記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	晴天時にはほとんど外に出て散歩を行い、花壇に咲くお花を見たり、畑に植えてある作物を見ていただき、気分転換が図られるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用する体制は整っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて、認知症の専門医の受診を支援している。	利用者の受診状況を把握し、認知症の専門医や歯科、眼科を含めて市外への受診も職員が対応することで、本人や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。薬剤師とは24時間連絡が取れる体制であり、薬が変わったときは申し送り簿で伝え、職員が共有できるよう取り組んでいる。受診結果は随時家族に連絡し、共有が図られている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日午前9時から訪問看護師に健康観察を行っていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	担当看護師より、日々の様子や退院日等の情報を収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	日常的な健康管理や緊急時の対応について、ご利用者様やご家族様と話し合い、意思統一を行っている。	ホームでは、利用者の重度化や終末期の対応を行える体制にないため、入居相談時にその旨を伝えている。継続的な医療行為が必要となった場合や重度化の際には、利用者の転居や入院等、利用者にとって必要な対応について速やかに支援できるように備えている。また、週1回訪問看護師がホームに来て健康管理を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは作成しているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器や避難経路の確保、設備点検を定期的に行っている。	日中だけではなく、夜間も想定した具体的な避難誘導策を作成しており、消防署職員が毎回参加のうえ、職員と利用者が一緒に年2回、火災想定の避難訓練を行っている。消火器や避難路の確保等の設備点検を毎年定期的に行うとともに、災害時に備えて食料や飲料水、寒さをしのげる部品等を敷地内倉庫に保管している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ファーストネームやセカンドネームのある方には、名字で声掛けしないように配慮している。	介助時は、利用者の羞恥心に配慮して言動を否定したり拒否せず、名字や名前、その方に合わせて「さん」付けで呼びかけている。職員は、守秘義務や個人情報の取り扱い等に配慮し、個人記録等の書類は事務室に保管している。利用者への対応がうまくいかない場合は、「場所を変える」、「時間を変える」、「人を変える」をキーワードにして取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分な働きかけや場面作りの支援ができていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われることがあり、特に入浴の場面では職員の都合を優先する場面が多くなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者に応じて、馴染みの美容院に出かけられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嚥下力や咀嚼力に応じて、食材の切り方等を工夫している。	管理栄養士である管理者が献立を作成し、自社の畑で収穫された新鮮な野菜を食卓に出しており、利用者の健康維持に必要な栄養バランスを考慮しつつ、好みや苦手なもの等に配慮している。昼食は、日勤の職員が一緒に食事を摂り、食べこぼし等のサポートをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	センター方式D3（生活リズムパターン）シートを活用して、水分摂取量等の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、歯みがきや入れ歯の手入れ、イソジン液でのうがい等を声掛けや一緒に行うことで実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎の声掛け誘導で、失禁や失敗がないように支援している。	一人ひとりの排泄パターンを記録・把握し、事前誘導により自立に向けた支援を行って、「臭いのない施設」を目指して排泄支援に取り組んでいる。夜間はポータブルを使わずに、全員トイレ排泄を支援している。尿意や便意の確認時や誘導時、失禁時の対応は、利用者のプライバシーに配慮して、他の利用者に気づかれないよう速やかに行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	毎朝の献立に、乳酸菌飲料やヨーグルトを取り入れ、便秘予防に努めている。また、天気の良い日には外へ散歩に出かけている。雨天時は、廊下を使って歩行練習をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日や時間帯、入浴方法等については、ご利用者様の意向を取り入れている。	一人ひとりの入浴習慣や好みを把握して、週2回の入浴を基本としており、入浴できないときは足浴を支援している。入浴が好きな方もおり、回数が多くなる場合には、家族の協力を得たりしながらできる限り希望に添えるよう努めている。羞恥心や負担感を理解した対応に努めている。拒否する利用者に対しては時間をずらして声掛けする等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外に散歩に出かけて外気を浴びる、足浴、ホットミルクを飲んで心地よく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理シートを作成し、在庫や種類、医療機関を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	袋づくり（排泄物入れ）や洗濯物たたみ、茶わん拭き等、それぞれの場面で声掛けして手伝っていただいている。ご利用者様自ら積極的に手伝っていただくこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年は、 ご利用者様と職員で十和田湖に紅葉狩りに出かたが、今年は新型コロナウイルス感染症予防のため支援できていない。	季節に応じ、サクランボ狩りやお祭り・紅葉狩り等に出かけている。現在はコロナ感染のため外出できない状況であるため、日常的にホーム周辺を散歩する等して、気分転換に努めている。きれいに整備された花壇の花を観たり、畑には季節の野菜が栽培されている様子を見ることができる。また、隣接する管理棟でカラオケ大会をして楽しむ等の工夫をして、ストレスの緩和に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持は、行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様がご家族様に電話をかけたいときやご家族様から電話がかかってきたときは、手元まで受話器を持って行って会話をできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いホールの窓から、季節ごとの花や農作物を眺めることができる。	ホールは、広く日射しが入ってとても明るく、利用者がそれぞれソファやテーブル席でくつろいで過ごすことができる。地域のグループから寄贈された手作りの大きな額絵が飾られていて雰囲気が良い。また、季節が感じられるように装飾をホールに飾り、窓の外には季節の移ろいを見ることができる。ホーム内は、加湿器や温度計、湿度計を設置しており、適切に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に、3人掛け用と4人掛け用のソファを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居決定時に、好みのもの等を持ってきていただくように働きかけている。	入居前から使用していたり、愛用していたもの等、馴染みのものを持ってきてもらうよう家族に働きかけている。居室への持ち込みが少ない場合、入居者の意向を確認しながら入居者にとって過ごしやすいお部屋となるように、職員と利用者が一緒に一人ひとりに合った居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面にトイレや各居室等の表示をしている。また、トイレの表示は目の高さに表示する等して、配慮している。		